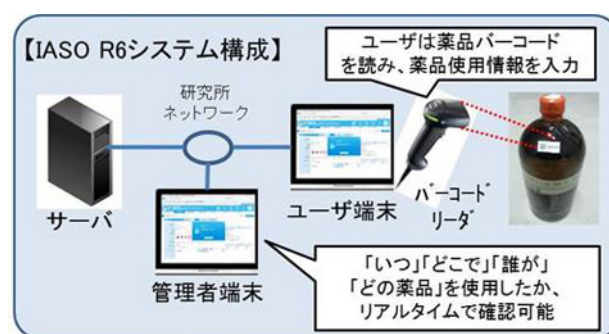


法令順守と環境汚染予防

薬品管理支援システムIASO (イアソ) を用いた化学物質の適正管理

厚木研究開発センタでは、研究開発活動に伴い、多種多様の化学物質を使用しています。こうした化学物質を適正に管理することは、法令順守と環境汚染予防の観点から非常に重要なことであり、NTT研究所における環境マネジメントシステム(Environmental Management System:EMS)の環境方針にも掲げられています。

以前、当センタでは、化学物質管理ツールとして独自システムを開発し、2005年度より運用を行ってきました。しかしながら、システムの使い勝手や、最新OS・ブラウザへの対応などの問題がありました。一方で、その頃大学を中心に使い勝手の良い市販の薬品管理システムが浸透しつつありました。そこで、ユーザの利便性と管理コストを鑑みて、市販の薬品管理支援システムIASO (イアソ) R6を選定し、数年かけてシステムの移行に取り組んできました。



IASO R6 システム構成

システム移行について

薬品管理支援システムIASO R6

IASO R6は、薬品ビン一つ一つにバーコードラベルを貼り、そのバーコードラベルを読み取ることで薬品情報を自動入力し、薬品を管理するシステムです。バーコードを読み取るためのバーコードリーダーは、ネットワークに接続されたパソコンにつながり、リアルタイムに薬品管理を行うことができます。

ユーザは、ユーザ端末のパソコンにログインします。薬品使用に関するユーザ情報、使用日時、使用量などのさまざまなデータがサーバに蓄積され、ユーザや管理者は、これらの収集された情報を閲覧することが可能です。

IASO R6は、以前の自社開発システムとコンセプトが全く異なっていたため、システム移行に際してはユーザが利便性を感じて使ってもらえることが大きなポイントでした。そのため、3年の準備・試行期間をかけてIASO R6への移行を行いました。

ユーザ利便性を考慮し、薬品を使用する約60ヶ所の実験室に、約100台のIASO専用パソコンを配備し、研究所内のネットワークでつなぎました。

また、IASO R6では、データベースに無い新たな薬品を導入する際には、薬品データの登録が必要となります。その手間を省くため、大手試薬メーカーの薬品カタログ情報約60万件をIASO R6システムに導入し、ユーザの利便性向上を図っています。

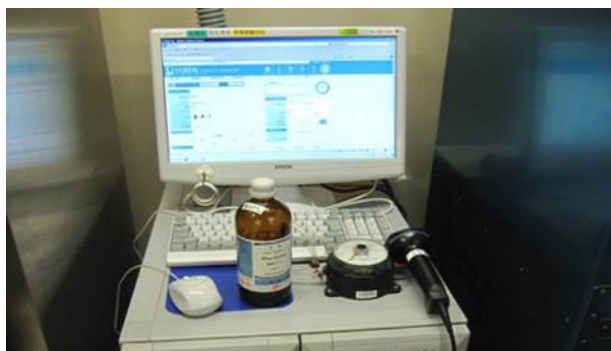


出展：IASO ホームページより抜粋 <http://www.iaso.info/r6/cm.html>

法令順守と環境汚染予防

薬品管理支援システムIASO (イアソ) を用いた化学物質の適正管理

さらに、読取性能が高い、小型の2次元バーコードラベルを採用して、薬品ビンのフタにバーコードラベルが貼れるよう工夫を加えています。



実験室に配備した IASO 専用パソコン



薬品ビンに貼付した IASO バーコードラベル

IASO R6運用について

これらの準備を行った結果、2014年度末で約5,000本の在庫薬品がIASO R6に移行されました。また、1日平均で約100本規模で使用されている薬品についても、問題なく運用が行われています。

このように当センタでは、IASO R6導入により、「いつ」「どこで」「誰が」「どんな薬品を」使ったかが、リアルタイムに分かるようになりました。

■ 今後に向けて

薬品使用の一層の安全性向上のために、今後は、薬品に関するユーザ教育の充実を徹底していきたいと考えています。IASO R6を利用することで、どのユーザーが、危険な薬品を利用しているかなどの情報が、瞬時に把握できます。危険な薬品を利用しているユーザをピックアップして、危険薬品の取り扱い教育をタイムリーに実施することも考えています。

また、ガスボンベに対しても、高圧ガス管理支援システムIASO G2を用いて2015年度以降に、ガスボンベ管理を開始する予定です。これによりガスボンベと薬品を一元的に管理して、より一層の安全性向上を図ります。

IASO R6の運用により薬品集計や環境汚染物質がどこで使用されているかなど、NTT研究開発拠点の安全性向上や環境負荷低減などのさまざまな測面で役に立つことが期待されます。



先端技術総合研究所 企画部 安全環境推進室
IASO 導入 / 管理担当者

(後左から)

江幡 啓介 市村 顕 大録 正 大山 貴晴

(前左から)

高木 典代 森 淳 萩原 恵美子